

最優秀賞【小学校中学年（三・四年生）の部】

一歩踏み出す勇氣

（課題図書：おいら、すてネコ「たまご」です）【感想文】

高萩市立高萩小学校 四年 高橋 玲衣

私はこれまで、「すてねこ」と聞くと、ただかわいそうで不自由なものだという印象しかありませんでした。でも、何か幸せになれる方法はないのかなと思います、この本を手に取りました。

読んでいて、一番胸が苦しくなったのは、たまごたちがカラスにおそわれた場面です。通りかかる人間たちは、ただ見て「かわいそうだな」と言っているだけだったからです。かわいそうだと思うなら、カラスを追い払ったり、安全な場所へ連れて行ったり、何かできたはずだと思います。人間が何もしない一方で猫のきなこたちが勇氣を出して仲間を助けようとした姿を見て、すごいと思いました。もし、自分はその場面に出くわしたら、安全な場所へ移動させてあげることができるかもしれません、すぐに行動できる自信はありません。

そのあとに、道ばたにいたたまごを拾って、家族として迎える決断をした今村家の行動は、とても立派だと思いました。「かわいそう」と言葉にするのは簡単ですが、その命の責任をもつことは、誰にでもでき

ることではありません。私は、航平くんのように、困っている命に気づき、すぐに行動できる人になりたいです。実際に行動することが大切だとこの話を読んで感じました。

私は今まで、野良猫を見かけてもあまり気にしていませんでした。でも、この本を読んで、彼らのために何かしたいと思いました。そこで、小学生の私に何ができるかを考えてみました。できることは四つあります。

一つ目は、出会った野良猫や野良犬を救いたいと思ったら、家族に「家で飼えないか」と勇気を出して相談することです。もし飼うことができれば、その命を直接救うことにつながります。

二つ目は、周りの大人たちに「近所に野良猫や野良犬がいる」ということを伝えることです。友達に話してみたり、ポスターを作って学校に掲示したりして、一匹でも多くの命が救われるきっかけを作りたいです。

三つ目は、野良猫や野良犬を見つけたら、動物愛護センターのような場所に相談することです。危険な外よりも、安心して暮らせる場所につないであげたいからです。

そして四つ目は、将来私が動物を飼う時は、ペットショップではなく、愛護センターから引き取ることです。いつか私も、たまごにとっての今村さんのような、温かい家族になりたいです。

犬も猫も大切な家族です。はじめはみんなに大切にされて飼われてきたはずです。でも、人間の勝手な理由で捨てられ、困っています。その犬や猫を救えるのもまた、人間です。大切なペットを捨ててしまっ

たら、その動物だけでなく、周りの人まで悲しい気持ちにさせます。人間も動物も、みんなが幸せに暮らせるように、わたしは「思う」だけではなく、勇気をもって「行う」人になりたいです。